

論文 article

コロナ禍の長瀬町における 観光者の来訪意識と観光地評価に関する基礎的研究

原稿受付 2021年7月30日

ものづくり大学紀要 第11号 (2021) 37~41

松本崇洸¹, 田尻要^{*2}, 守家志和^{*3}, 木村奏太^{*4},^{*1} ものづくり大学大学院 ものづくり学研究科 ものづくり学専攻^{*2} ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科^{*3} ものづくり大学 非常勤講師^{*4} 埼玉県立いずみ高等学校 環境建設科 技術教員

(ものづくり大学大学院 ものづくり学研究科 ものづくり学専攻 修了)

A Basic Analysis of visitor awareness and tourist destination evaluation
during the Spread of Covid-19 in Nagatoro Town

Takahiro MATSUMOTO^{*1}, Kaname TAJIRI^{*2}, Kazushi MORIYA^{*3}, Souta KIMURA^{*4}^{*1} Graduate student, Graduate School of Technologists, Institute of Technologists^{*2} Professor, Dept. of Building Technologists, Institute of Technologists, Dr. Eng^{*3} Part-time Lecturer, Dept. of Building Technologists, Institute of Technologists^{*4} Technical Teacher, Dept. of Environment and Construction, Saitama Prefectural IZUMI High school
(Graduate, Graduate School of Technologists, Institute of Technologists)**Abstract**

The Japanese tourism industry was severely damaged by the effects of the COVID-19, which began to spread in 2020. Coronavirus damage continues even in Nagatoro Town, Saitama Prefecture. To eliminate the anxiety of tourist destinations, it is necessary to know what kind of tourists are acting with what kind of consciousness. In this study, we analyzed the effects of infectious diseases on the choice of tourist destinations and the evaluation of manners among tourists during the spread of infectious diseases. As a result of the analysis, from the summer to the fall of 2020, the number of visits considering infection decreased in Nagatoro Town. However, there were a certain number of tourists who were afraid of infectious diseases. Those who were concerned about infectious diseases were particularly afraid of crowding. To raise the evaluation of tourist destinations, it is necessary to improve the local manners.

Key Words : Planning city, COVID-19, Tourism awareness, Manners of tourist spots**1. はじめに**

2020年初頭から国内外で流行しはじめたCOVID-19(以下コロナと略す)の影響により,同年4月7日に7都府県に緊急事態宣言が発令されて以降,観光業界は経済的に大きな被害を受けた1)-2).中山間地域に位置する埼玉県秩父郡長瀬町(以下長瀬町と略す)には埼玉県を代表とする自然観光資源が多く,コロナ禍である現在もにぎわいを取り戻しつつあ

る.しかし,感染症への不安感は払拭されたわけではなく,各観光者が観光を満足したうえで再来訪につなげるためには,コロナ禍においてどのような層が来訪し,観光地評価を下しているのかを把握し,それぞれに対して対策を講じる必要があると考えられる.

そこで,本研究ではコロナ禍における観光地評価や観光者相互のマナーに対する評価などを調査・分析することで,感染症が及ぼす来訪意識の影響を明らか

にし、観光産業の需要回復へつながる活用方針の検討を行う。

2. 調査の概要

2.1 観光来訪者調査の概要

調査の概要を Table1 に示す。本研究では長瀨町への観光来訪者を対象とし、観光に対する評価やコロナ禍でのマナーに関する調査を直接配布アンケートで行なった。

Table1 Survey outline

No	項目	概要
1	調査対象	長瀨町来訪者
2	調査場所	長瀨駅前・宝登山神社前・宝登山ロープウェイ前
3	調査手法	アンケート方式
4	回収方法	料金受取人払いでものつくり大学田尻研究室へ郵送回収
5	調査時期	夏 秋
6	調査期間 回収/配布部数 (回収率)	8月29日(土) 133/500部(26.6%) 11月29日(日)・30日(月) 220/800部(27.5%)
7	合計回収部数 (回収率)	353/1300部(27.2%)

3. 分析の概要

本研究では、どのような来訪者層が来訪し観光地評価を下しているのかを把握するため、Table2 に示すように調査対象である来訪者を「コロナによる影響の有無」と「来訪に対する積極性の有無」の2つの軸で分類する。また各項目を掛け合わせたものを Table3 に示し、こちらの4層ごとに分析を行う。

Table2 How to classify visitors

コロナによる影響の有無	
あり	なし
コロナを考慮した層	コロナ以外の個人的な来訪理由を持つ層
来訪に対する積極性	
積極的	消極的
初めから長瀨町に来訪するつもりだった層	他の観光地と比較して長瀨町に来訪した層

Table3 4 categories of visitors

【A】	なし×積極的	純粋に長瀨町に来訪した層
	あり×積極的	コロナウイルスを考慮して積極的に長瀨町に来訪した層
【C】	なし×消極的	移動や費用を考慮し他の観光地の代替として長瀨町に来訪した層
	あり×消極的	コロナウイルスを考慮して他の観光地の代替として長瀨町に来訪した層

4. 調査の結果・分析

4.1 選択動機の割合について

季節ごとの選択動機を Fig.1 に示す。季節を通じた選択動機として、【A】なし×積極的層が最も多く【D】あり×消極的層が最も少ないことがわかった。また夏から秋にかけてコロナの影響があまりの層は減少していることがわかった。その中で【C】なし×消極的層は24%から34%に増加しており、【D】あり×消極的層の減少に関連していることが考えられる。【B】あり×積極的層と【D】あり×消極的層においては、コロナ禍での新たな客層であり、長瀨町の観光需要回復にとって重要な位置付けであることが考えられる。

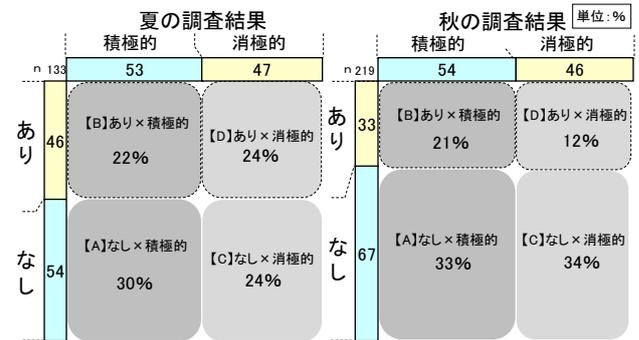


Fig.1 Result of selection motive

4.2 来訪への期待度

各層の来訪への期待度を Fig.2 に示す。積極的層においては、「非常に期待していた」という回答が多く、長瀨町の観光を楽しみにしていたことがわかった。消極的層においては、「非常に期待していた」という回答が少なく、積極的層に比べ期待度が低い傾向にあると考えられる。

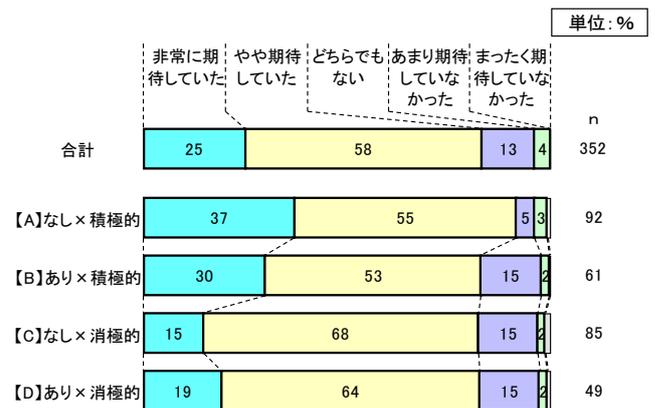


Fig.2 Expectation of visit

4. 3 再来訪意向と満足度について

各層の再来訪意向を Fig.3 に示す. 積極的層においては、「ぜひ来たい」という割合が多く,長瀬町への再来訪意向が高いことがわかった.消極的層においては「機会があれば来たい」という割合が多く,再来訪意向が積極的層に比べて低いことがわかった.

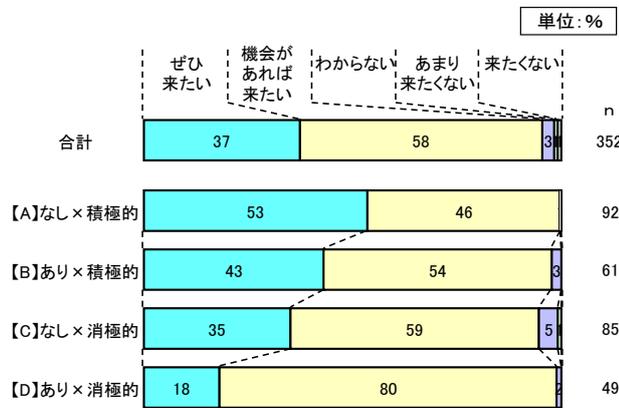


Fig.3 Intention to return

またコロナ禍での観光の満足度を Fig.4 に示す. 全体的に満足できなかったという回答は少なく,どの層においても満足できたという回答が多いことがわかった.【B】あり×積極的層においては他の層に比べ,とても満足できたという回答が少ないため,コロナ禍での長瀬町観光を十分に楽しめなかったことが考えられる.

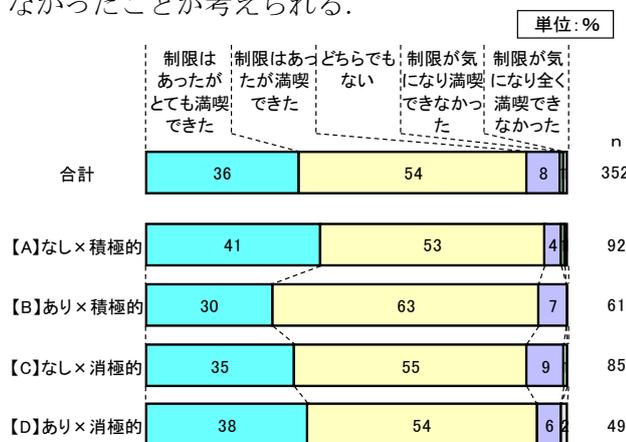


Fig.4 Enjoyment

4. 4 検討された観光地について

長瀬町の来訪以前に検討した観光地について,各層とのコレスポンス分析を用いて Fig.5 に示す.【A】なし×積極的層と【B】あり×積極的

層は他の観光地を検討する傾向はあまり見られないことがわかった.【C】なし×消極的は「レジャー・体験施設」や「牧場・公園」など自然的な場所を検討していたことがわかった.【A】【B】【C】層においては,自然的な観光資源の多い長瀬町との親和性が高い選択肢であったことがわかった.

【D】あり×消極的層は「温泉街」や「リゾート観光地」を検討していたことがわかり,長瀬町とは異なるジャンルの観光地であることがわかった.このことから,【D】層においては,検討した観光地と長瀬町の間ギャップが生じていたことが推測される.

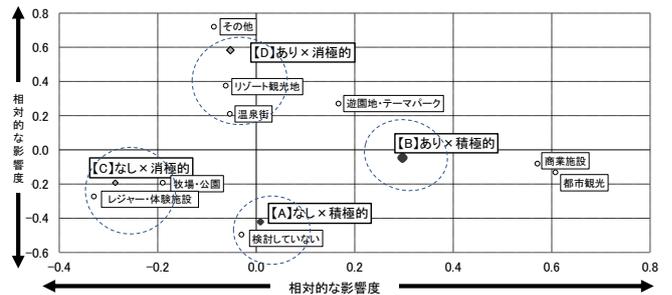


Fig.5 Sightseeing spots considered before going

4. 5 日本の感染者数と長瀬町の関係性

日本のPCR検査陽性者数の推移とGoToトラベル事業における月ごとの利用泊数(万人)について,回答者のコロナによる影響と比較したグラフを Fig.6 に示す.

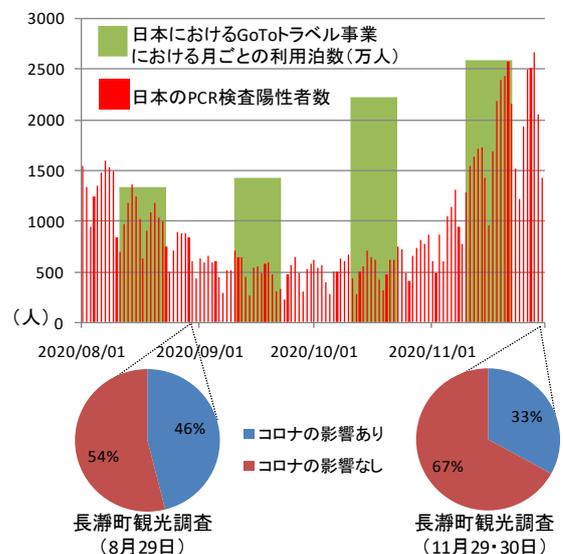


Fig.6 Relationship between the number of infected people in Japan and Nagatoro Town

夏調査時は陽性者数が減少傾向にあり長瀬町への選択動機はコロナの影響ありが46%であったが、秋の調査では陽性者数が増加傾向にありながらコロナの影響ありは33%減少していることがわかった。このことから、日本のPCR検査陽性者数の増加は長瀬町へ訪れる際の動機としてコロナの影響ありには直接起因せず、コロナに対する意識が希薄になりつつあると推測される。さらにGoToトラベル事業における月ごとの利用人数も増加傾向にあり、自由意思による観光が進んでいることが考えられる。

5. 観光地のマナーに関する分析

以降では観光地におけるマナーに着目し、来訪者間でのマナーが再来訪意識に及ぼす影響について分析を行う。

5.1 マナーへの感受性について

観光地のマナー状況による感受性を Fig.7 に示す。【B】あり×積極的層が最も気にする割合が多く、マナー状況による影響を受けやすいことがわかった。【D】あり×消極的層においては、気にしないと答える割合が多くマナー状況による感受性が低い傾向にあると考えられる。

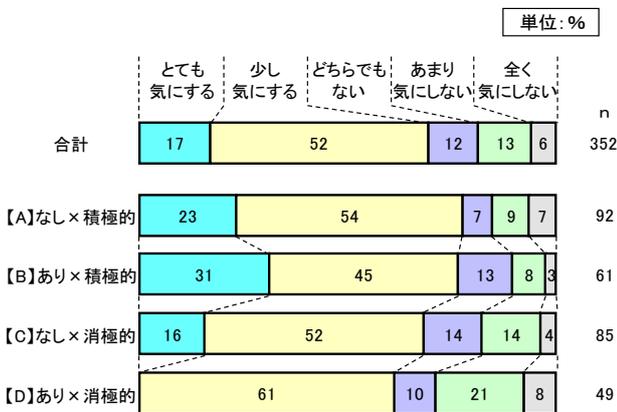


Fig.7 Sensitivity of manners

5.2 観光地のマナーに対する評価

観光地のマナー状況について、各層の5段階評価を平均化したものを Fig.8 に示す。全体的な評価として、室内での「話し声」や「密集」の評価が低いことがわかった。特に【B】あり×積極的層からの評価は、他の層に比べて低い傾向にあり、コ

ロな禍でのマナーに対する基準が高いことが考えられる。またマスクの着用に関する評価は、室内と屋内の両方で高い傾向にあり、観光地のマナー状況において適切な環境が保たれていると考えられる。

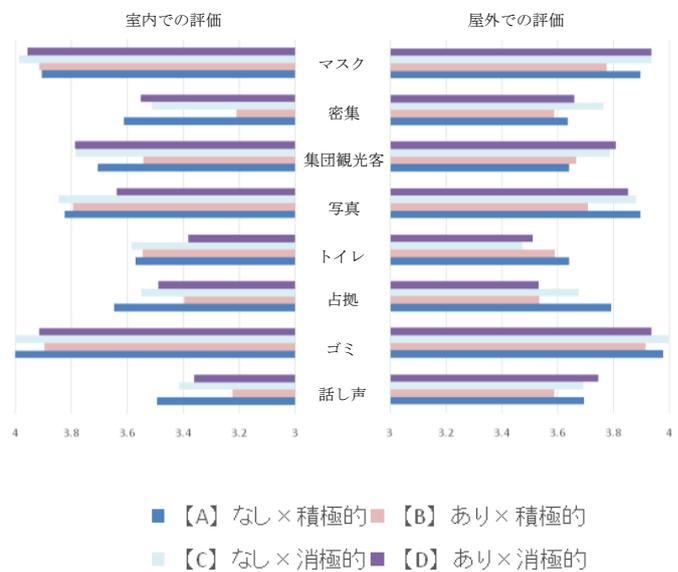


Fig.8 Evaluation of manners in tourist areas

5.3 マナーによる再来訪意向への影響

マナー状況による再来訪意向への影響を Fig.9 に示す。【A】なし×積極的層においては、「影響しない」という回答が他の層よりも多く、長瀬町への再来訪にマナー状況が影響しない層が多いことがわかった。コロナの影響が有りの層においては、他の層よりもマナー状況が再来訪意向に影響される傾向にあるため、長瀬町の評価にマナー状況が大きくかかわっていることが考えられる。

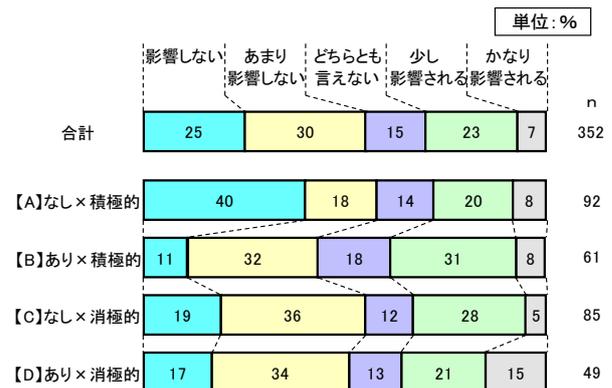


Fig.9 Impact on the re-visit intention by Manor

5.4 コロナの影響に関する総括

各層に着目したコロナの影響に関する総括を Fig.10 に示す。【D】層においては、夏から秋にかけて 12%減少しており、コロナの影響がある層は減少傾向にあると考えられる。また【B】層においては、マナーの感受性とマナーの影響が最も大きい層であり、コロナ禍において最も影響が大きいことがわかった。

項目	【A】なし×積極的	【B】あり×積極的	【C】なし×消極的	【D】あり×消極的
夏調査時	▲ 30%	■ 22%	■ 24%	■ 24%
秋調査時	▲ 33%	■ 21%	▲ 34%	▼ 12%
検討した観光地	検討していない	検討していない	レジャー・体験施設 牧場・公園	リゾート観光地 温泉街
マナーの感受性	気にする	とても気にする	気にする	あまり気にしない
マナーの影響度	影響しない	とても影響される	少し影響される	とても影響される

Fig.10 Summary of the effects of corona

6. 本研究で得られた知見

本研究で得られた知見と今後の展望を示す。

- ①季節を通じた選択動機として、【A】なし×積極的層が最も多く【D】あり×消極的層が最も少ないことがわかった。また夏から秋にかけてコロナの影響がありの層は減少していることがわかった。
- ②長瀨町では、コロナの影響がある層の来訪が減少しており、日本の PCR 検査陽性者数の増加は長瀨町へ訪れる際の動機としてコロナの影響ありには直接起因せず、コロナに対する意識が希薄になりつつあると推測される。
- ③長瀨町来訪以前に検討された観光地について【A】【B】【C】層においては、自然的な観光資源の多い長瀨町との親和性が高い選択肢であったことがわかった。【D】層においては、長瀨町とは異なるジャンルの観光地であることがわかった。このことから、【D】層においては、検討した観光地と長瀨町の間にギャップが生じていたことが推測される。
- ④マナーに関しては【B】あり×消極的層が最も気にする割合が多く、マナー状況による影響を受けやすいことがわかった。【D】あり×消極的層においては、気にしないと答える割合が多いことがわかった。

7. 課題と今後の展望

2020 年夏から秋にかけて、長瀨町ではコロナの感染リスクを考慮した来訪は減少しており、コロナに対する意識が希薄になりつつあると推測される。観光地での感染拡大を防止するためには、今後も来訪者と観光事業者の双方が協力し合い、入り口での検温検査やアルコール消毒やマスクの着用などの感染症対策に力を入れていく必要があると考えられる。【D】あり×消極的層は、コロナ禍で発生した新たな客層であり、長瀨町の観光産業の需要回復にとって重要な位置付けであると考えられる。しかし再来訪意向は各層の中で最も低い結果となっており、検討した観光地と長瀨町の間にギャップが生じたことや、マナーによる影響を受けやすいことが原因ではないかと考えられる。再来訪につなげるためには、癒しを取り入れた観光の充実や現地のマナー状況の改善などが必要だと考えられる。

【謝辞】

本研究は国土交通省「地域公共交通網形成計画事業」の助成を受け、長瀨町企画財政課、長瀨町産業観光課と共同で取り組んでいるものです。関係各位に感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) 池田千恵子：COVID-19 における観光需要の大幅な減少と宿泊施設への影響－石川県金沢市を事例として－、日本地理学会発表要旨集、2020 年度日本地理学会秋季学術大会、p.166,2020.
- 2) 埼玉県物産観光協会：第 2 回新型コロナウイルスによる物産観光事業への影響調査結果、2020 年 12 月 15 日、(閲覧日 2021 年 1 月 5 日).
- 3) 厚生労働省：オープンデータ、2020 年 12 月 24 日、<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>、(閲覧日 2020 年 12 月 25 日).
- 4) 国土交通省観光庁：Go To トラベル事業の利用実績について、2020 年 11 月 13 日、https://www.mlit.go.jp/kankocho/news06_000496.html、(閲覧日 2020 年 12 月 25 日).

